



どうぞのいす

こうま よしこ
香山美子

どっかい
読解 田中保成

Ver. 1

D 4

問題1 うさぎさんが つかったのは どんな いすですか。

- ① おおきな いす
- ② ちいさな いす
- ③ ながい いす
- ④ みじかい いす

指導ポイント

名詞はイメージしやすいのでよく覚えているものですが、名詞の様子を表す形容詞は、覚えていないことがあります。

特に、大きい小さいといった比較概念は同時に二つのものをイメージ化しなければならぬので消えやすいようです。

D 5

問題2 うさぎさんは どんな いいかんがえが うかびましたか。

- ① いすを もうひとつ つくろう。
- ② いすに みじかい しっぽを つける。
- ③ たてふだを つくる。
- ④ いすを もりに もっていこう。

指導ポイント

小さいすを作った↓そのいすにしっぽをつけた↓ちよつとかんがえた↓いい考えがうかんだ↓たてふだを作ったの流れを覚えていれば、「良い考え」は、「たてふだを作ること」だということが分かります。

D 6

問題3 ろばさんは いすに すわる かわりに かごを いすに おいたのはなぜですか。

- ① すわるには 小さかったから
- ② かごを おいて やすみたかったから
- ③ どうぞと かけて あったから
- ④ ろばは いつも たっているから

指導ポイント

行動には目的があります。それを読み取るためには状況把握と心情把握の両方が必要です。

かごを置く前の状況は、ろばはどんぐりが一杯入ったかごを持ってあるいている。このことから、心情を推理すれば、疲れているので休みたいという気持ちだろう。

その気持ちが原因で、結果としてかごをいすに置いたということになります。

そのことは、かごをいすに置いたあと、「つかれていたから いい きもち」と、ろばが思っていることから推測できます。

子どもたちは文章を読んでいる時はその場面がイメージできてもすぐ消えてしまう段階の子も少なからずいます。

また、設問の文を読んでいいるうちにそれに影響されて、連想が文脈から離れる子どもいます。

たとえば、設問の文にある「ろば」と「いす」から連想し、それをそのまま比べて、ろばは椅子にすわれないという結論になってしまいう子もいます。

そのような子には、本を開いたまま考えさせるのがよいと思います。

D7

問題4 ろばさんが ついおひるね したのはなぜですか。

- ① つかれていたから
- ② いいきもちだったから
- ③ じかんが あったから
- ④ せなかが かるくなつたから

指導ポイント

それで ろばさんは ついおひるね。ということですから、おひるねした理由は「それ」ということになります。

「それ」が何を指示しているかを考えると「いいきもち」ということになります。

いいきもちだったから、思わずねていたのです。もちろん、その「いいきもち」の原因は「つかれていたから」であり、「せなかが かるくなつたから」であり、「おおきな きの しただったから」であります。

ただ、これらは「おひるね」の直接原因ではなく間接原因です。

「なぜ」と理由を聞かれている場合は連想の範囲を広げないで、直接原因を答えるよう指導するのがよいと思います。

D8

問題5 くまさんは えんりよなくと いって なにを しましたか。

- ① いすに すわった。
- ② はちみつを たべた。
- ③ **どんぐりを たべた。**
- ④ おひるねを した。

指導ポイント

物語は登場人物とその行為によってストーリーが展開されていきます。

ですから、登場人物とその行為とを正確に結びつけて覚えていなければ、ストーリー展開を正しく理解することはできません。

しかし、低学年では、なかなか一回で正確に結びつくことはありません。ですから、最初はゆっくり読み、句読点で一息入れる指導をするのが良いと思います。

さらに、将来的なことまで考えると低学年では多読より注意深く読む精読を勧める方がよいと思います。十回読んでも読みすぎということはありません。

p 9

問題 6 くまさんは どんぐりの かわりに なにを いましたか。

- ① ばん
- ② はちみつ
- ③ ぶどう
- ④ くり

p 10

問題 7 くまさんの つぎにやって きたのは だれですか。

- ① ろば
- ② くま
- ③ きつね
- ④ りす

p 11

問題 8 きつねさんは かごを からっぽにしては だれが きのどくだと おもいましたか。

- ① ろばさん
- ② くまさん
- ③ あとの ひと
- ④ りすさん

指導ポイント

よく知っているものはすぐイメージもできますし、そう簡単には消えません。

しかし、「あとの ひと」というような抽象的な事柄は理解も難しいですし、わかったとしてもそのイメージは消えやすいものです。

ですから、子どもの知らない抽象的語句が出てきた場合は、単文を作らせるもの一つの学習法だと思えます。

p 12

問題 9 りすさんは なんびき いましたか。

- ① さんびき
- ② ごひき
- ③ ななびき
- ④ じっぴき

問題10 ろばさんは、かこの どんぐりが くりにかわっていたのを どのよう
に かんがえましたか。

- ① くまさんが どんぐりを たべて くりを 入れた。
- ② きつねさんが どんぐりを たべて くりを 入れた。
- ③ りすさんが どんぐりを たべて くりを 入れた。
- ④ **どんぐりが おおきくなって くりになった。**

指導ポイント

このような論理矛盾も知識なくしては理解できません。
低学年の読解力は知識量に比例しますので、日常生活における経験を通じた知識や色々
な分野の読書を通しての知識の習得を勧めましょう。

問題11 まさか！は だれが おもっているのですか。

① 香山美子さん

- ② くま
- ③ きつね
- ④ りす

指導ポイント

会話文と地の文の違いを意識して読書する癖をつけさせてやりましょう。
会話文では誰がいったのかを意識させましょう。
地の文では誰の視点で書かれているのかを意識させましょう。



ぴかぴかのウーフ

かんざわとしこ
神沢利子

どっかい
読解 田中保成

Ver. 1

p 16

問題 1 おかあさんは なぜ「あら、」といったのでしょうか。

- ① ウーフが 大きくなったのに おどろいたから。
- ② おばさんが あそびに くるのを おもいだしたから。
- ③ **ズボンが 小さくなったのに 気づいたから。**
- ④ ウーフが とつぜん あらわれたから。

指導ポイント

「あら」という感嘆詞は、（女性が）驚いたり不審に思ったりしたときに発する言葉です。

驚きは予想に反した出来事であったときに生じる気もちです。

- ① おかあさんが おどろいたのは ズボンがウーフにとって小さくなったからで、ウーフが大きくなったからではありません。
- ② おばさんが あそびに来るのを おもいだしたのは 「そうそう」といったときです。
- ③ その ズボン、ずいぶん 小さくなったわね。」と言っていますから、この「あら」は、ズボンが小さくなったことに気づき驚いたということです。
- ④ 「あら」から「驚く」を連想し、設問の「ウーフが とつぜん あらわれたから」から「驚く」を連想し、「驚く」ということで2つが結びつく子もいます。つまり設問を読んでいる間に本文の情景が消え言葉の意味だけで結びつけてしまうということです。

ですから、選択したあともう一度本文を読んで確認する癖をつけさせる必要があります。

p 17

問題 2 「えっ、これ あげちゃうの？」と ウーフが おもったのは、お母さんのどのことばからですか。

- ① その ズボン、ずいぶん 小さくなったわね。
- ② あそこには、男の子が 三人も いるんですもの。
- ③ **そのズボン、まわしてあげましょう。**
- ④ きつと、よろこんで はいてくれるわ。

指導ポイント

びっくりする気もちは、予想に反したことが起こった時の気もちです。

ですから、お母さんの言葉の中に、ウーフが予想していなかった言葉があったという事です。

- ① 「その ズボン、ずいぶん 小さくなったわね。」は、ズボンをはいていて窮屈に感じていると思われるウーフには予想できた言葉だと思われず。
- ② 「あそこには、男の子が 三人も いるんですもの。」は、親戚のいとこの数はウーフも知っていると思われるので、予想できた言葉だと思われず。

③「そのズボン、まわしてあげましょう。」は、ズボンが気に入ってずっとはきたいと思っっているウーフにとっては、予想してない言葉だと思われれます。予想してないから、びっくりしたのです。

④「きつと、よろこんで、はいてくれるわ。」は、「そのズボン、まわしてあげましょう。」という言葉から、ウーフは予想できたと思われれます。

p118

問題3 「いやだ、いやだ。あげるもんか。」と いったとき ウーフは どんなきもちでしたか。

① たのしみになっている

② しんばいしている

③ こころばそい

④ きんちようしている

指導ポイント

①「楽しみにしている」は、これから起こる良い結果をイメージしながら待つときの気もちです。ウーフにとってズボンをあげることは良い事ではありませんので、「たのしみになっている」ということはありません。

②「しんばいしている」は、これから起こる悪い結果をイメージしながら待つときの気もちです。ウーフにとってズボンをあげることは、悪い事ですから「いやだ」というのも当然のことです。

③「心細い」は頼れるものがないときの気もちです。ウーフには頼れるおかささんがいますので、「心細い」ということはありません。

④「緊張する」は、慣れないことをするときや、失敗をおそれているときの気もちです。ここでは、ウーフが何かをするという場面ではありませんので、「緊張している」ということはありません。

p20

問題4 草むらから、ばったが とびだしたのは なぜですか。

① 火事だから

② 地しんがおきたから

③ ひとごろしがきたから

④ ウーフが ばたばた かけたから

指導ポイント

①ばったが、ねぼけて火事だと勘違いしただけで、実際には火事は起こってはいません。

②ばったが、ねぼけて地震だと勘違いしただけで、実際には地震は起こってはいません。

③ばったが、ねぼけて人殺しが来ただと勘違いしただけで、実際には人殺しは来ていません。

④実際は、ウーフがばたばたかけたので、その振動で目が覚めたばったがびっくりして飛び出したのです。

問題5 「いやだわい。」ウーフは、首を ふりました。ウーフは どのように首を ふったのでしょうか。

- ① 首を ぐるっと まわした。
- ② 首を 右のかたと 左のかたに つけた。
- ③ かおを 上と 下に ふった。
- ④ かおを 右と 左に ふった。

指導ポイント

実際の会話では、声の抑揚、大小、高低、速度などによって話し手の気持ちを察知することができます。しかし、物語の会話文は文字しか書いてありませんので、文字情報からだけでは話し手の本当の気持ちを読み取ることはできません。

そこで、話し手の顔の表情、振る舞いなどと会話の内容を結びつけて、話し手の気持ちを推察します。

さらに、情景なども参考にしながら話し手の気持ちを推察することもあります。

首をふるといっても色々な仕草があります。この設問は、仕草と気もちが正確に結び付けられているかを調べる問題です。

- ① 首をまわすのは、疲れた時や気分を切り替えるときなどの仕草です。
- ② 首を肩につけるのは、肩がこった時などの仕草です。
- ③ かおを上下にふるのは、同意を表す仕草です。
- ④ かおを 左右にふるのは、不同意・反対などを表す仕草です。

問題6 「親ごころ」は どんなきもちですか。

- ① こわい
- ② はずかしい
- ③ おもいやり
- ④ うらやましい

指導ポイント

①「こわい」は、出来事や相手をおそれる気もちです。

②「はずかしい」は、立派な相手の前で、堂々としていられないときの気持ちです。

③「おもいやり」は、弱い人の身になって考えるとき気持ちです。親子の関係では、親が子に対するおもいやりを、「親ごころ」というのです。

④「うらやましい」は、すぐれた相手を見て、自分もそうなりたいとおもう気もちです。

問題7 「ズボン……」ウーフは、かなしく なりました。なぜ、ウーフは かなしく なったのですか。

- ① へびに「あんまり おこると、おしりが はじけちゃうわよ。」と言われたから。
- ② ズボンが びちびちだから。
- ③ へびが したを だして わらったから。
- ④ ズボンを あげるとき かんがえたから。